

表現運動の特性と授業づくり ーその気にさせる・本気になれる授業ー

講師 筑波大学名誉教授 村田 芳子先生

「はずむ」というキーワード。子どもの中にあるものがアウトプットされる状態。心だけでなく、体も弾む。おへそから弾むことで、息も弾む。笑顔になる。

今の子どもたちは、心と体がアンバランスになっている。心は敏感だけれど、体は鈍感になっており、コミュニケーション力が落ちているなかで、はずみながら体でコミュニケーションをとることは、今の教育の問題を解決する糸口になる。今日の講習で、このようなことを耳で、体で、感じてほしい。

ゴールフリーの難しさ。だけれど、そこがダンスのおもしろいところ。子どもは踊りたい。

体育の学習では、一方通行の学習形態は壊す。人と人が向かい合えるようにする。それがコミュニケーションにつながる。体育の良い授業は、「勢いがあるって雰囲気がいい」こと。教員だけが頑張って子どもがやる気にならなければ一方的なスイッチ。面白さに触れると子どもの本気スイッチが入る。子どもを本気にさせるために教員は何をするか。

1. 学習指導要領改訂のポイントの確認

- ・これまでの「生きる力の育成」の方向を残しつつ、体育で教えるべき内容が明確化・体系化された。「問題解決学習」と「基礎・基本の習得」両者の融合・・・これまでの方法論上の不足を補い、より確かなものにしていく。表現運動だけでなく、すべての領域で求められている。

- ・「4・4・4」の発達の区分に対応した内容とその接続の重視

- 低・中学年に体づくり運動を位置付け一体力の重視
- 「基本の運動」がなくなり、内容の系統性を重視
- 「ゲーム・ボール運動」の「〇〇型」でくくる内容構成
- 中学校1・2年における武道とダンスの必修化
- 今、新学習指導要領の方向をより**確かな授業の展開へ**

2. 「4・4・4」の括りによる表現運動系・ダンス領域の発展と内容構成

- ・**低中学年**・・・いろいろなリズムや表現の遊びを体験して、多様な身体感覚やコミュニケーションの基礎を身につけ、踊りが好きになる段階
- ・**高学年・中学1・2年**・・・いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性（楽しさや魅力）に触れる段階（中学2年まで必修）
- ・**中学3年**・・・好きなダンスを選び、時・場所・仲間に応じてダンスを再構成・創造してダンスの特性を深める段階（選択制への移行）

3. 学校で取り上げる3つのダンスの特性

それぞれの特性を明確に知った上で指導する。

- ・表現、創作ダンス・・・表したいイメージや思いを自由に動きを工夫して踊り表現する。
- ・リズムダンス、現代的なリズムのダンス・・・ロックやヒップホップなどの現代的なリズムにのって自由に友達とかかわって踊る。
- ・フォークダンス・・・日本や外国の伝承された踊りを身につけてみんなで一緒に踊って交流する。

4. いま、求められる教師の指導力と授業づくりのポイント

○教師に求められる体育の「実践的指導力」(体育学会・体育科教育専門分科会資料より)

- ①授業を設計する力
- ②実際に授業を実践する力
- ③授業を評価し観察する力

○表現運動・ダンスで求められる教師の指導性

(村田編著「表現運動―表現の最新指導法」小学館、2011年7月より)

- ①表現運動・ダンスの思想(考え方・理論)を持つ。・・・楽しさや魅力を言葉で伝えられる
→楽しいと思えていないと、先生との距離や学級の雰囲気がそのまま出る。
- ②授業をデザインする(構想する)力を持つ。・・・単元を構成する力
- ③学習の場や踊る空間を演出する力を磨く。・・・踊る気分や雰囲気をつくる
→「踊れる」と「授業できる」は距離がでる。
- ④実際の学習者とのやり取りで発揮する指導力を磨く。・・・実技指導力
- ⑤授業を評価する力・・・自分の授業を振り返り考察(省察)、他者の授業観察
→子どもに「表現運動って何?」って聞かれたら、わかる言葉で説明できるようにしておきたい。表現をする
とこんなに良いことがあるよと教師自身が語れる力をつける。

○授業づくりのポイント

- ・運動の特性から単元の内容の取り上げ方(具体的な指導内容の明確化)
- ・運動の特性に関わる技能や体力をどう押さえ、授業の展開(学習過程)にどう組み込んでいくか
- ・「何を」の内容とともに、「どのように」という活動の仕方を具体的に、他者とのかかわり合いが豊かに展開される活動形態が授業を変える。
- ・上との関連で、指導と評価をどう一体化していくか。

5. 運動の特性の広がり ―技能と関わる運動の面白さの探求から導かれる学習のねらいと内容―

○体育学習における「運動の特性(楽しさや魅力)―技能―体力」の3者の「目的―手段」の関係。

→「体力向上」を直接目標にするとドリル化してしまい、おもしろくなく、子どもは自ら行わない。間接目標にした方がよい。

○特に、運動の特性を、その運動を成り立たせている特有の「技能楽しさ」の面から明確にしていく。このような運動の特性と密接にかかわる技能の内容を「動きの面白さ」ととらえ、それを運動の特性とともに指導計画にも明確に示していく。・・・この運動の特性と「動きの面白さ」を子どもたちの学習の方向づけ(ねらいと内容)として大切にしていく。

6. 子どもをその気にし、本気にさせる【動きの面白さ】 ※具体的には午後からの実技講習会で行う ＜表現運動の場合＞

○リズムダンス「リズムにのる」には?

弾む・・・アフタービート(後打ち)・・・おへそが弾む・・・だから、スキップさせればよい

※ロックやサンバはアフタービート＜裏拍を取る＞

しかし、日本人のリズム感はおんビート＜拍で取る＞

リズムにのるーリズムを崩す(素早く・ストップ・スロー)

○表現「なりきる」には?

非日常の体・動き・・・ねじる・回る・ジャンプする

題材の質感を明確に、多様に

大げさに(誇張・デフォルメ)・対極の動き(コントラスト)

メリハリと連続感・一気に通して踊る

表現運動は、ゴールフリーで、体で感じて、人とかかわって楽しむ。

記録：境港市立余子小学校 松本善枝

八頭町立隼小学校 奥田友香